動労千葉

動労千葉結成10周年！

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話｜（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

1989.9.25 No.3087

関西に交流センター結成 9.3

全国に交流センターの輪をつくろう。関西に続こう。

九月三日、全国労働組合交流センターの呼びかけに応えて、全国で初の地方交流センターが関西で結成された。

三月以来、動労西日本大阪支部、スタンダードヴァキューム石油自主労組、大阪オフセット印刷労組、全港湾建設支部大和分会の四つの労働組合と教組、全逓、国鉄などの七つの職場グループによってつくられた関西労組交流センター結成準備会は、交流と討論をくり返し、十回にわたる準備会議や六月独自の合宿を通じて信頼と連帯をつくり出して結成をかちとった。

結成集会に参加した労働者は一二〇名。それぞれの職場・労組から運動をつくり出し、またつくろうという労働者が労組ごと、グループで結集したものである。集会場には五つの組合旗が掲げられ、集会は動労西日本の司会によって始められた。

最初に、九州の清算事業団の労働者から「連合」への動きの中で孤立しながらも奮闘している清算事業団労働者の首切り撤回・原職復帰の闘いに支援をという訴えが行われた。既に関西労組交流センター結成準備会は、九州清算事業団との現地交流、「連帯する会」への加入に取り組んでおり、交流センター運動の重要課題として闘いが始められている。

さらに、戦後労働運動の先頭を切って労組づくりと戦闘的な労働運動を担ってきた労働運動の大先輩からあいさつを受けた。「現場末端の五人〜十人から労働運動をつくり直そう」という激励と期待をこめたあいさつを受けた。

全国交流センターからは、動労千葉の中野委員長があいさつに立った。「連合」は総評がもっていた資本主義と闘うという階級的立場を投げすてた方針綱領をもって戦後はじめて登場した、「その恐るべき狙いを全国の労働者に知らせることから始めよう」として、本気で労働者の中に入り自己の職場のことを知り尽し、職場の信頼関係を確立する、一から出発してわれわれの手で本物の労働運動をつくり出そうという檄が飛ばされた。

結成集会は、結成準備会よりのあいさつ、方針提起に移り、結成準備会を代表してス労自主入江委員長から、結成に至る経過と、当面の重要方針として、①清算事業団闘争の支援 ②新学習指導要領との闘い ③未組織労働者の組織化に取り組むことが提起された。次いで、運動の基調、方針、会則が国労新幹線支部大阪保線所分会執行委員である富田君から提起された。

続いて、十二の労組職場グループから闘いの報告と決意の発言が行われた。動労西日本大阪支部、大阪オフセット印刷労組、ス労自主の二つの支部、府高教の闘う労働者、二つの市教組、三つの全逓の分会グループ、国労共闘、全港湾建設支部大和分会と、それぞれの闘いの報告や、これから本気になって労働運動に取り組むという発言が次々と行われた。

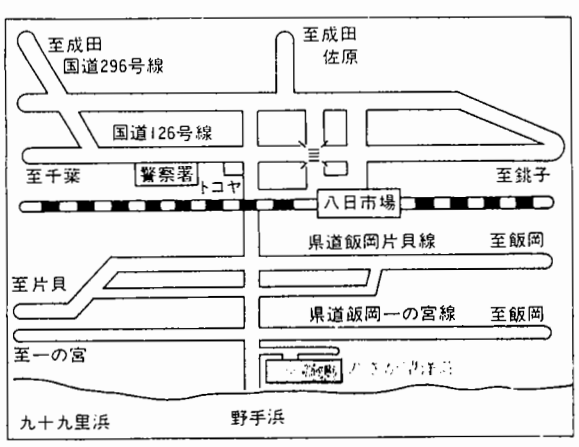
さらに自由討論では、統一労組懇下で苦闘する労働者、解雇撤回を闘う労働者、医療労働者、全逓労働者、府高教の女性労働者から闘いの報告や問題提起、交流センターへの意見が出された。

その後、結成準備会参加労組、グループの代表が運営委員に選出され、代表委員として、ス労自主の入江委員長、国労の富田新幹線大阪保線所分会執行委員を選出し、結集した一二〇名の団結ガンバローをもって集会を成功のうちに終了した。

関西交流センターは、結成によってつくられたこの陣形をもって、さらに職場労働者の中に深く入り込み、職場闘争をつくり出し、反「連合」・反統一労組懇の統一戦線を拡大し闘いぬくことだろう。

（関西からの寄稿）

第16回定期大会に集まろう。



◎日 時 10月8日（13じ）〜
10月9日（12じ）

◎場 所 国民宿舎・のさか望洋荘
（上記）